

国立国語研究所学術情報リポジトリ

<報告>世界の文字体系から見た漢字とインドにおける漢字教育・学習の取り組み

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: パルデシ, プラシャント メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000940

世界の文字体系から見た漢字と インドにおける漢字教育・学習の取り組み

プラシャント・パルデシ

こんにちは。ブラシャント・パルデシです。インド出身です。インドの長い歴史を千五百年くらい遡って話を始めます。その後はキャンパスを世界の言語に広げて、世界の言語のなかで日本語の漢字はいつたいていどういふ文字なのかを説明します。最後にカメラをズームインしてインドに戻り、インドで日本語学習者はどのように漢字を学んでいるかをお話しします。

日本語における文字使用の曙

日本では五、六世紀までは話し言葉のみで、書いているわけではなかったのですが、日本語の記録を遡って調べることはそれより前は不可能でした。中国から漢字を輸入したのが日本語の書き言葉のはじまりです。そのあとは平仮名、片仮名ができます。なぜ日本語の平仮名が「あかさたなはまやらわ」となっているかという点、それは当時のインドのシタン文字の配列をまねて作ったという歴史があるからです。

そのあと日本に漢字が輸入されるわけですが、さきほど加納先生の話にもありましたように、一つの漢字に複数の読み方がうまれます。いくつとも音読みがあったり訓読みがあったりします。これは世界でお

そらくはじめての実験です。私が学んだ言語のなかで、一つの文字にこれほど複数の読み方がある文字は見たことがありません。これは人間が作った非常に完璧なシステムの実験の成功例だと思えますので、日本の皆さんは、漢字に誇りを持つべきだと思います。

世界には六千から七千ほどの言語があるといわれています。方言と言語の境目は簡単には決められないので正確な数はわかりませんが、そのなかで、文字で書かれている言語はかなり少ないのです。いまでも文字をもたない言語はたくさんあります。それらの言語のなかで、その言語を記録しようとしたとき、どんな文字体系が考えられたかを、最初にお話しします。ですので、発表の構成ですが、まず世界の文字体系から見た日本語の漢字を見ること、そのあとにインドにおける漢字教育について話します。三十年以上も前に、私

プラシャント・パルデシ (Prashant PARDESHI)

国立国語研究所教授。インド・ブネー市生まれ。2000年、神戸大学大学院文化科学研究科博士課程修了(博士(学術), Ph.D.)。専門は言語類型論、対照言語学。著書は『自動詞・他動詞の対照(シリーズ言語対照<外から見る日本語>第四巻)』(共著:西光義弘、くろしお出版、2010年)、『言語のタイポロジー 認知類型論のアプローチ(講座:認知言語学のフロンティア 第五巻)(講座:認知言語学のフロンティア)』(共著:堀江薫、研究社、2009年)。



文字が表す単位	代表例
語	ヒエログリフ:  トンパ文字: 
	漢字: 加
音節	仮名: か、カ
音素	ラテン文字: k, a, ...
	デーヴァナーガリー文字: क + आ → का
	アラビア文字: ك ← ا + ك

図2 世界の文字体系の類型

文字が表す単位	呼び名[日本語・英語]
語	象形文字(logograph): ヒエログリフ、トンパ文字
	表語文字(logograph): 漢字
音節	音節文字(syllabary): 仮名
音素	アルファベット(alphabet): ラテン文字 <small>(文字名の由来: ギリシア文字の最初の2文字)</small>
	アブギダ(abugida/alphasyllabary): デーヴァナーガリー文字 <small>(文字名の由来: エチオピアで使われるGe'ez文字の最初の4文字)</small>
	アブジャド(abjad): アラビア文字 <small>(アラビア文字の最初の4文字: "A" (alif), "B" (bā'), "J" (jim), "D" (dāl))</small>

図3 世界の文字体系の類型

そして、「音節」を書く。音節というのは、発音できる最小の単位です。つまり、母音がないと発音できないわけですので、子音と母音が一緒になって音節を作るわけですが、その音節を書く。ですから、仮名の「か」をローマ字で書くと「ka」、子音があつて、子音のあとに母音がつく形になります。日本語の文字を勉強した時、私は最初の授業に、「か」という文字がでてきたとき驚いてしまいました。「か」と「き」のあいだに形の上でなんの関係もない。形はまったく似ていない。「く」がでてくると、また別の形がでてくる。「け」がでてきたら、また別。英語であれば、kがあつて、それに「a i u e o」がついていくというように分析できるのですが、日本語の漢字だけではなくて平

仮名にもびっくり。外国人から見ると、これはいったいどういう文字なのかと驚くわけです。

実際には、「音素」を書く言語が、世界には非常に多いのです。音素は、言語のなかで一番小さい単位といわれています。その小さい単位には発音できないものもあります。母音と子音を分けて書く文字が、図2にも三種類あります。ラテン文字のように、kという子音があつてaという母音があり、両方を対等な立場で書くわけです。デーヴァナーガリー文字はインドで使われている文字で、それとアラビア文字があります。これらについて詳しい話をします。

世界の文字体系の類型

大きな分類をすると、図3のようになります。上のほうが意味を表している文字で、下のほうが音を表している文字です。意味を表しているものなかにもいろいろあつて、音を表すものなかにもいろいろあります。それぞれ名前がついています。文字があると必ず名前があるわけです。それぞれの文字は、どのように呼ぶのかというと、文字が語を表すのは、象形文字といったりヒエログリフといったりします。抽象的な名前では、象形文字はロゴグラフ(logograph)と呼ばれます。表語文字もロゴグラフです。音節を表している文字のなかにいろいろな名前があります。よく日本語の文字を見ると、Japanese syllabaryと書いてあります。これは音節(syllable)を意味するといふ意味です。

次はラテン文字ですが、ギリシア文字の最初の二文字、α(アル

ファー)とβ(ベータ)をとってアルファベットと呼んでいます。また、インドの文字デーヴァナーガリー文字は、アブギダまたはアルファシラバリと呼ばれます。なぜ、アブギダと呼ぶのかというと、エチオピアで使われているギース文字の最初の四文字です。もう一つ、アブジャドがあります。これはアラビア文字の最初の四文字、A (alif)・B (ba)・J (jim)・D (dal)を組み合わせたものです。

それぞれの文字の種類に名前がつけられているわけですが、それを見ると、仮名文字は母音と子音が合体しているの、字の形はそれぞれ異なるわけです。アルファベットは、k i のように、子音があつて母音があり、両方対等な関係で書いている。アブギダは子音を中心とします。母音は二次的です。ですから、**図4**のように、「k」という子音があつて、これがaがついたら「ka」になる。また、「k」という子音に「i」がつくと「ki」になる。**図4**のka, ki, ku, ke, koみたいに、母音は子音の右隣に書いたり、左に書いたり、上に書いたり、下に書いたり、右側に隣と上に書いたり、いろいろな形で、母音はあとから付随的につけていくという感じの文字です。

アブジャドは世界の文字のなかで非常に変わっている文字です。母音は付随的で、多くの場合、書きません。子音だけで書きますので読むのが非常に難しいのです。

それぞれの文字の分布を世界地図で見ると(**図5**)、その分布は歴史

- ・ 音節文字：母音と子音の区別なし。
か、き、く、け、こ
- ・ アルファベット：子音と母音が区別され、対等な関係にある。
KA KI KU KE KO
- ・ アブギダ：子音を中心とし母音は二次的
k + ā → ka ; k + ī → ki
क का कि के कु को
- ・ アブジャド：母音は付随的、多くの場合表記しない。詳細は後ほど。

図4 世界の文字体系の類型

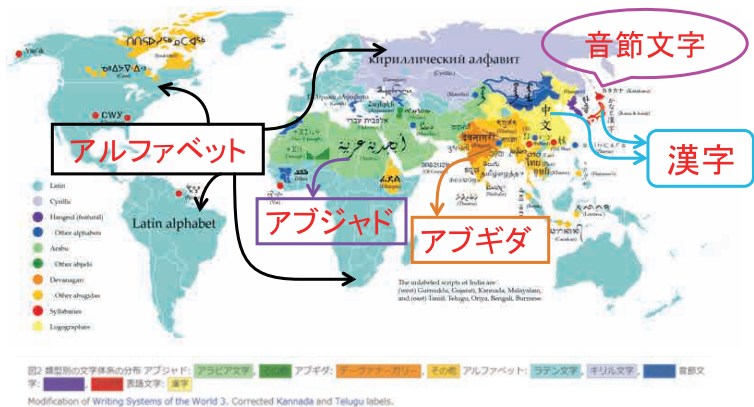


図5 世界の文字類型とその分布 (文字体系の一覧。出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)

を物語っています。イギリス、ポルトガルは世界中のいろいろな国を支配していったアルファベットを広めたわけです。イスラム教とともにアラビア文字が広まり、仏教とともに漢字が中国、韓国を経て日本に伝わりました。文字はこのように移動します。人間と同じように移動していくのです。

図6は象形文字のトンパ文字です。雲南省のあたりでは、まだ書か



図6 象形文字(トンパ文字、東巴文)

(Source: sagastamp.com, http://blogs.yahoo.co.jp/hiromasa_0521/17478191.html)

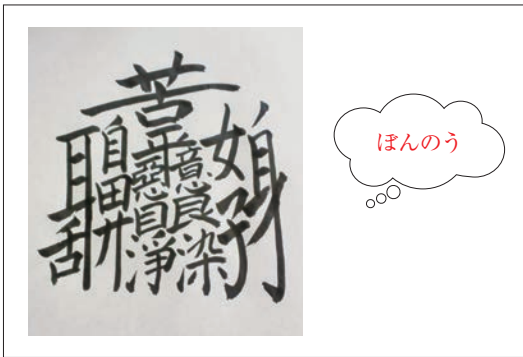


図7 表語文字(漢字)

(Source: Twitter/take0531ahaaan)

母音 子音	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
	カ	キ	ク	ケ	コ	ク	キ	ク	ケ	コ	キ
ナ	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ニ
ダ	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド	ヂ
ラ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ラ	リ	ル	レ	ロ	リ
マ	マ	ミ	ム	メ	モ	マ	ミ	ム	メ	モ	ミ
バ	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	ビ
サ	サ	シ	ス	セ	ソ	サ	シ	ス	セ	ソ	シ
ヤ	ヤ	ユ	ユ	ヨ	ヨ	ヤ	ユ	ユ	ヨ	ヨ	ユ
ヂ	ヂ	ヂ	ヂ	ヂ	ヂ	ヂ	ヂ	ヂ	ヂ	ヂ	ヂ

図8 音節文字(ハングル)

(Source: <http://www.k-plaza.com/korean/kouza/hansetsuhyou.html>)

れているようです。ネットで探してみると、雲南省のどこかで図6のように壁に楽しくいろいろな文字・絵が描いてあって、これを読める人がいるようです。実際にこのような文字が存在しているそうです。

図7の漢字、読める人が何人いるでしょうか。「ほんのう」と読むそうです。概念も仏教からきていて非常に複雑で、文字も複雑になっています。

図8はハングル文字です。これはアブギダです。図8のように子音が並んでいて、母音と子音を組み合わせています。韓国語ではまずこれを習うわけです。韓国語の授業では、ハングルは非常に科学的な文字と説明するわけですが、韓国の人が知らなくてはいけないのは、これはインドの文字を真似て作ったシステムであるということです。

ももとはシタン文字を真似て、そこからできています。

図9は、ロシア語を書くために使うキリル文字です。これを見るとだんだんアルファベットも自信がなくなってきました。一定の地域の人には読めるのですが、昔、私が子どものときは「USSR」なつかしいですね。当時の「ソビエト社会主義共和国連邦」の略称をキリル文字ではCCCPと書くのですが、これをどうやってUSSRを読むのかと、子どもながらに疑問に思ったことがあります。このような文字もアルファベットの仲間です。

音素文字のインドのアブギダは、非常に科学的なものです(図10)。世界で一番古い文法書といわれているパーニニというインドの言語学者による『アシュターディヤーイー』という本で、音声の話を最初に書

أ	ب	ت	ث	ج	ح
خ	د	ذ	ر	ز	س
ش	ص	ض	ط	ظ	ع
غ	ف	ق	ك	ل	م
		و	ي		

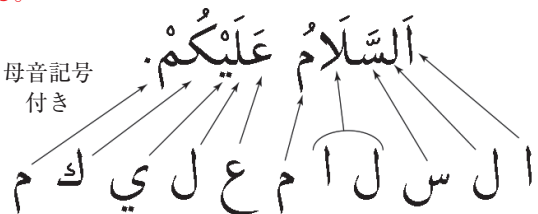
基本字母28字。内22字は単独形、頭字(語頭)、中字(語中)、尾字(語尾)がある。
右から左の順で書く。




(語末) (語中) (語頭) (単独形)

図11 音素文字：アブジャド
(Source: <http://jsdqatar.com/arabic.html>,
agata.ciao.jp, obun.jp, Wikipedia)

アラビア語の母音は、基本的にア/a/、イ/i/、ウ/u/の3つ、およびそれを長音化したものと、組み合わせた二重母音のみである。通常の表記においては母音を表す記号が省かれ、主に教育・解説用のテキストでのみ用いられる。

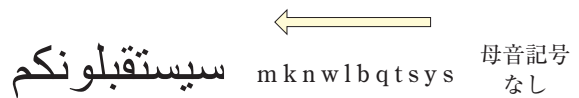


母音記号付き




assalamu'alaikum (あなたの上の平和を): こんにちは

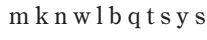
図12 音素文字：アブジャド
(Source: <http://jsdqatar.com/arabic.html>,
agata.ciao.jp, obun.jp, Wikipedia)




←



sayastaqbilunakum 「彼らはあなた方を歓迎するでしょう。」



mknwlbqtsys 母音記号なし



mukanūlibqatsayas 母音記号付き

図13 音素文字：アブジャド
(Source: 新妻仁一教授(私信))

ですから、図12では、文字の上に母音記号がついています。このようなものを書くことは、普段はしません。

アラビア語の一つの文章を図13に書きましたが、ここに長いものがあって、これで一つの文になっているわけですが、さきほど説明したように、このようにグニャグニャとついでこのような形になるわけです。そして、上と下を見てみると、ここでは母音を書いています

が、上のほうには母音はありません。普通はこのように書きます。たまに下のようには書きます。こちらは主に子ども用です。図13は、「彼らはあなた方を歓迎するでしょう」という文です。赤で書いているものは母音を表しています。上にはそれがありません。子音だけでこう読んでもきます。ところで、私は一年前からアラビア語の授業にでているのですが、知っている単語であれば読める、知らなければ読めません。こ

れは漢字もまったく同じです。知っていれば読める、知らなければ辞書を調べる。それはよいのですが、アラビア語の場合、辞書で調べられるようになるのは五年くらいかかります。すべての文法を知らないで辞書のなかに書いてある形にたどり着かないからです。日本の漢字辞典は、部首を知っていればたどり着くことができますから、せいぜい数か月の話です。アラビア語の場合はそういうわけにはいきません。ですから、漢字学習者には、「あなたがやっている作業はまだまし、楽もつと難しいことをやっている人がいます」と言えるのです。

次は、私がなぜ漢字を勉強したかについてお話ししたいと思います。私はアルファベットを書きました。インド人ですからアブギダもできました。アラビア文字はインドで勉強していました。唯一残っていたのが漢字でした。漢字ができれば、私は世界の文字を一〇〇パーセント制覇することができます。それぞれの言語の学習者に、あなたはいままで六割なのか七割なのかを示して、残りを制覇すればおもしろいのではないか、自慢話ができるかもしれない。飲み会でそういうネタで話を広げることができるかもしれない、という楽しい発想からモチベーションが生まれできたのかもしれない。

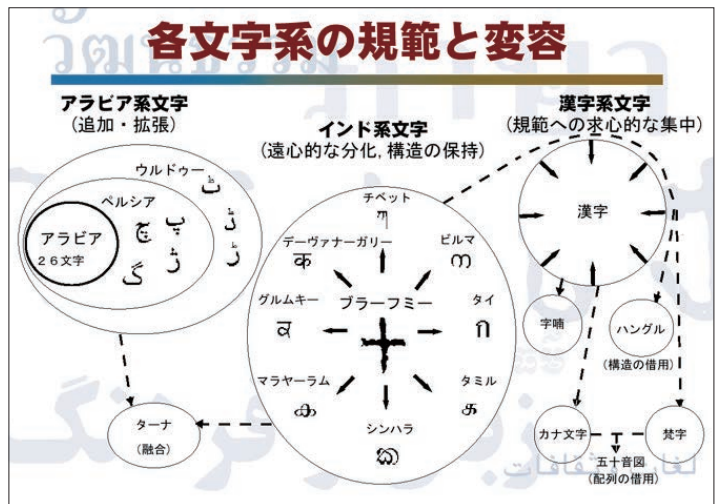


図14 文字の影響：インド系文字→五十音図
(Source: <http://www.aa.tufs.ac.jp/i-moji/what/kihan.html>)

文字の影響

インドから仏教とともにインド系文字が中国に伝わって、中国から韓国にはいつて、韓国から日本にやってきて、**図14**のような文字がいろいろできました。さきほど五十音図の話をしました。インドのシタン文字の影響は、日本の文字にもあります。どうしてあるのでしょうか。

玄奘三蔵の話、西遊記はみなさんご存じかと思いますが、長安という町から玄奘三蔵はナランダーというインドの町にいつて、そこでサンスクリット語を学んで、約五年間インドに滞在しています。そのあと、仏典をもって長安に戻って翻訳を行う**図15**。これは、たぶん世界でまたとない壮大なスケールで、そして、無償で翻訳されたものも大きな事業だと思います。飛行機はありませんから、歩いたり、馬にのったりいろいろな苦勞をして三蔵法師が仏典を中国に持ち帰り翻訳したわけです。

西安にいくと、お寺があります。そこに弘法大師は修行にいつています**図16**。そこで空海はまず仏典を学び、日本に帰国してから仮名ができるわけです。そういう壮大な話があつて仮名ができています。中



629年に陸路でインドに向かい、巡礼や仏教研究を行って645年に経典657部や仏像などを持って帰還。

玄奘 三蔵(602~664年)は、唐代の中国の訳経僧。

図15 文字の移動：インド系文字→カナ文字

(Source: todaiбусsei.or.jp, Wikipedia, emiliasekai1.blog.fc2.com)



弘法大師・空海は恵果和尚から密教の教えを受けた(遣唐使として804年に渡唐し806年に帰国)。

図16 文字の影響：インド系文字→五十音図

(Source: <http://isamusouma.web.fc2.com/43seian.html>)

国から漢字がはいってき
て、仮名はそのあとに作ら
れて、日本語は漢字と仮
名を混ぜて書く言語になっ
て、そのあとにはいろいろ
あるわけです。ですから、
インドで私が日本語を学ん
だときに最初に驚いたのは
仮名でした。これは母音と
子音が合体している、初め
て見た文字です。私が漢字
を勉強したのは、その一年
後でした。最初は楽しく、
最初の授業は「あ」だけを
学びました。そのあと一週
間かけて「い」にいくとい
うような、ゆっくりコース
で、五十種ある平仮名を
一年間かけてマスターしま
す。そのあとは漢字にしま
しょう、その方法は非常
によかったなと、今思いま
す。

第二部 インドにおける漢字教育・学習の取り組み

いままで七世紀の話をしていました。西遊記では、七世紀には三蔵法師は漢字という文字を母語にもちながら、インドにいつてアブギダであるサンスクリット語の文字を勉強しました。現在ではなにが起こっているかという、インド人のアブギダという文字を知っている人が漢字と仮名を学ぼうとしています。時代が変わりました。移動の方法も変わりました。ですので、インド人は、いままで他の人に教えることが多かったのですが、今度は学ぶ立場になるので、三蔵法師の悩みがわかると思います。

文字の池から文字の海への挑戦

インド人の学習者はインド系の文字、母音と子音をあわせて約五十個の文字を知っています。一方、日本語の常用漢字は二千百三十六字ほどあります(図17)。インド人から見るとなんと約四十倍です。「インド人もびっくり。」

このフレーズはどうしてそのようになったのかわかりません。インド人だってびっくりしないことはない。普段びっくりするわけですけど、どっかのステレオタイプに、インド人はびっくりしないという前提条件があって、それによって、この表現がうまれたのだと思います。私も普段、よくびっくりします。

さらに、数だけの問題ではありません。読み方が複数あります。最初に生年月日、あなたはいつ生まれましたか、みたいな文ができた

りしますが、学生の「生」の漢字を日本語教育で最初に学ぶわけですが、これがものすごい。四十七個くらいの読み方があるらしく(図18)、非常に複雑な字です。これをいつべんには覚えられないので、徐々に徐々に覚えていきました。ああ、こういう読み方もある、こういう読み方もある、たまにはこんな読み方もあつたりしますといったように。

さらにさらに、「画数の多い文字もたくさんあります(図18)」。最初は非常にやさしい字、川とか山、木を見て、ああなるほどと意味を書いてみるとわかります。そのころ私が一番関心をもった、「愛」はどう書くのでしょうか。そのとき私は十八歳くらいでしたので、この概念はどうやって漢字で書くのか、英語ではどうやって書いたら愛が伝わるかということでした。そのようにさまざまな目的で文字を学ぶことをはじめました。

でも漢字を勉強してわかったことは、図18の魚偏のついた漢字を見ると、みんな左に書くサカナという意味を表すものがあつて、右にそれをどう読むかというようなものがあることは、あとから知って、非

- ・ インド人日本語学習者：インド系文字(アブギダ)
- ・ 母音と子音を合わせて約50個
VS
- ・ 日本語漢字
- ・ 常用漢字表：2010年(平成22年)11月30日に平成22年内閣告示第2号として告示され、2,136字／4,388音訓[2,352音・2,036訓]から成る。
- ・ インド人から見ると字数はなんと約40倍!!!
インド人もびっくり!!!

図17 文字の池から文字の海への挑戦

常に楽しかったです。

さらにさらにさらに、同じ字なのに読み方が異なる場合もある。われわれの研究所は国立の近くにありますが、この国立国語研究所は、「クニタチコクゴケンキュウジョ」と読むのか、「コクリツコクゴケンキュウジョ」と読むのか。市場（シジョウ、イチバ）、意味が違いますね。スケールがぜんぜん違いますね。イチバといったらローカルで、シジョウといったらグローバルということになります。かなり意味の広がりがあります。

さらにさらにさらにさらに、母語話者も自信をもつて読めない人名、

地名、当て字があります。こ

- ・ さらに多くの字に読み方が複数ある!!!!
生む(うむ)、生きる(いきる)、生える(はえる)、生い立ち(おいたち)、生田(いくた)、生ビール(なまビール)、生業(なりわい)、生活(せいかつ)、生涯(しょうがい)、弥生(やよい)、桐生(きりゅう)、……47個あるらしい!!
- ・ さらにさらに画数の多い字も少なくない!!!!
鯉(かつお)、鯛(はたはた)、鱒(ます)、鱈(きす)、鱧(はも)、鱈(すずき)、鯉(ひかい)……

図18 文字の池から文字の海への挑戦

れは留学生にとつては救いです。日本人も読めないんだつたら僕も大丈夫。ですから、これを授業でやるときに最初にいってべきです。「日本人もすべての漢字を読むことはできない。すべてを書けることはさらにない。あなたは日本人のなかで完璧なほうではなくて、下のほうにはいるかもしれない。けれども勉強すれば真ん中ぐらいにいて、場合によっては、日本人を超えることもあるかもしれない」。

本当にそういうことはありうると思います。

ほんとうにびっくりするのは、読み方が書き順と逆になっているケースがあることです。「不忍通り(しのばず通り)」、これは実際に存在するわけですね。これは文字と読みの順番が逆になっています。中国語の語順が使われています。そして、新しいコンビネーションもあります。「*coming tomorrow*」は、どう読むでしょう。これは私の言語学の授業で課題としてよく出しているのですが、「ソーイングトゥモロー」なのか、「クリエイティングトゥモロー」なのか、どう読むでしょうか。どなたか答えを教えてください。

インド人学習者に残された道

インド人の学習者にとつて漢字は難しいのです。けれども、残された道はなんなのかということ、私が自分の授業でいつてきたことを、みなさんにお伝えしたいと思えます(図19)。

「我慢してひたすら字を書く練習をする」。

これが大事です。なにことも。よく皆さんにいつているのですが、なにかを得るため



に、なにかを失わなければならない。なにを失うかと思ったら、自由時間を失う。勉強する時間を増やす。それが学問をやるために絶対に必要なことです。

もう一つは、「百回以上書き、身体で覚える」。日本人もよく字を忘れたりすると、空文字みたいなものを書きますね。手が覚えているのですが、頭が忘れてることがあります。これも授業でいいました。日本人だって忘れる。手を動かしたらでてくる。とにかくたくさん書いて、手をなれさせる。この字だったらこう、手が動くことが大事。

また、「読み方を丸暗記する」。これ以外に方法はない。近道はない。熟語も、最初は丸暗記する。そのうちに、あなたは自分で分析できるようになる。もう少しお待ちください。とにかく、最初に五百の文字を我慢強く覚える。これは化学の物質の周期表と同じです。酸素と水素がまじったら水ができる。そのあとは、たとえば別のものとなにか一緒にすると化学反応によって結果(つまり熟語)が異なるわけです。その一番よい例は、たとえば、「長」という字を学ぶときです。これはチョウと読む。それだったら社長からはじめて、部長、次長、課長、係長、いろいろなことばを作ればよい。同じチョウと読む。それが最初にいった、長男であるとか長女とかということになる。ですので、こういう組合せはいろいろあります。右左、上下いろいろな字を入れてみて、どういう単語が作れるかを楽しく考える。これさえ我慢できれば、この最初の五百文字を突破することができれば、幸せが待っています。

どういう幸せかというと、それは初めて、なにか新しい漢字を見て、意味が理解できるという幸せです。

漢字の長所

「卒原発」。以前の選挙で聞いたのですが、私も今では完璧に意味がわかります。「脱原発」もわかりました。これらは、まだ辞書に載っていないと思います。また、いくらでも長い単語を自分でも作ることができます。私が作ったのがこれです。

「NINJALフォーラム企画委員会設置規定改正検討作業部会報告書 原案作成作業」という一つの単語です。「使用済み核燃料廃棄物処理計画実施検討委員選出」というようなものを遊びで作ることができます。

どこまでできるか、自分でやってみてください。

また、多くの情報をコンパクトにまとめられる。これは漢字の最大の力です。たとえば、「分煙」。Wikipediaには「分煙とは、受動喫煙の防止を目的とし、不特定多数の人が利用する公共の場所や施設等において、喫煙場所となる空間と、それ以外の非喫煙場所となる空間に分割する方法である」という長つたらしい説明が書いてありました。日本語でたった二つの文字「分煙」でこの長つたらしい説明をコンパクトに表現できます。英語に翻訳するのが大変です。雨天決行など、英語のパンフレットを見るとどう説明するのかなあと、毎回その翻訳を楽

- ・我慢してひたすら字を書く練習をする！
- ・100回以上書き、体で覚える！！
- ・読み方を丸暗記する！！！！
- ・熟語も丸暗記する！！！！
- ・とにかく最初の500字を我慢強く覚える！！！！！！
- ・この500字の坂を登れば、幸せが待っている！！！！！！

図19 インド人学習者に残された道



図20 お勧めの参考文献

しみにしているのです。
 最近テレビで流れているコマシヤル、「発電、蓄電。売電で節電」。ヤマダ電機だったと思います。こういうものをはじめても、私はもう、目で情報がとれるようになりました。昔は、インドにいたとき耳で情報をとっていました。最近、字を見て楽しんで、目で意味を理解している。場合によっては、自分で新しい単語を作っている。こ

れが漢字の最大の力ではないかと思えます。
 世界の文字について知りたいのなら、私も日本の文字について書いている『図説 世界の文字とことば』という本があります(図20)。ど
 うぞ書店でお手に取ってみてください。ご清聴ありがとうございます。